（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

玉名高等学校附属中学校　令和元年度（２０１９年度）学校評価表

１ 学校教育目標

（１）教育方針

ア　「平成３１年度（２０１９年度）県立中学校・高等学校における教育指導の重点」を踏まえ、本校の三校訓「至誠・剛健・進取」の具現化に努め、徳・体・知の調和がとれた全人教育をめざす。

イ　これまで積み上げてきた本校の教育方針に基づき教職員が一体となって、家庭や地域との連携のもと、活力ある学校づくりをめざす。

（２）教育目標

ア　自ら学び考える創造性と情熱豊かな生徒の育成

イ　他の人も自分も大切にする生徒の育成

ウ　故郷や日本、世界に貢献しようとする生徒の育成

２ 本年度の重点目標

（１）教育目標の実現に向けて

スローガン：夢実現・未来への挑戦　Enterprise

ア　玉名高等学校附属中学校の生徒としての基本的な生活習慣の確立

イ　授業力向上及び個に応じた相談対応、学習指導及び進路指導

ウ　日頃からの職員間コミュニケーションによる学校改革の推進

エ　特別活動（生徒会・部活動等）を生かし、自主性や創造性、奉仕の精神などの育成

オ　地域・保護者との連携

カ　読書活動の推進等、言語環境の整備

学校生活全体を通じて、言語環境を整えることにより、総合的な言語能力（読む・書く・聞く・話す）の習得並びに実践する態度を養う。

３ 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	教育課題の共有化	今日的な教育課題の共有及び本校における教育課題の共有。 中高合同職員会議・運営委員会における情報の共有	新聞等で報道される教育課題の共有と公文書の内容の共有。本校の中高合同職員会議・運営委員会での協議事項等の共有。	新聞等の記事をコピー配付し周知を図る。 必要に応じて公文書を中学職員で回覧する。職員会議･運営委員会の協議事項等を中学朝会等で周知する。（副校長・教務部）	A	新聞等で報道される教育的課題について、適宜共有した。公文書及び運営委員会での協議事項等、中学校内で回覧し内容を周知した。
		本校の各取組における前年度の反省等による改善。 職員会議や各分掌等における決定事項の確実な周知と実践	各取組の企画段階での関係係との連携。 中学校職員会議の定期的な実施による共通理解の徹底と実施の際の協力。	各取組において関係係で事前に相談し起案文を活用し確実に計画する。 また､職員朝会･中学校職員会議において、取組内容を周知し、職員で協力して実践する。（副校長･教務部）	A	各取組において事前の相談と起案を徹底し確実に企画立案した。 朝会及び中学校職員会議で、内容の周知を確実に行った。 各取組では、互いに進んで協力し合うことができた。

		中学校独自の課題に沿った職員研修の実践と質の確保。	本校の課題に沿った職員研修を各係が中心となって企画・実践する。定期的に職員研修を行う。	各係がテーマを設定し、本校の課題解決に向けて、外部講師招聘を含めた職員研修等を各学期行う。(副校長・教務部・校内研究担当)	B	道徳教育における校外研修の復講や総合的な学習の新たな教材について研修を行い、次年度の計画や評価について考えを深めた。他の課題についても、今後取り組みたい。
	危機管理意識の高揚	日常的な取組の繰り返しによる早期発見・早期解決に通じる危機管理意識の確立	危機管理意識の日常的な意識・心がけとしての捉え直し。 報告・連絡・相談の確実な実践。	生徒情報や各取組の改善等、職員間での情報の共有を日常的に行う。職員朝会の簡素化を実践し、各学年の打合せの時間を確保する。 職員相互の早め早めの声かけにより、生徒の状況や各取組の状況などを把握する。(副校長)	A	職員会議で、生徒情報や各取組の改善点について、常に話題とした。ホワイトボードを活用し朝会の連絡を簡素化し、学年ごとの打合せ時間を確保した。 職員同士互いに声を掛け合うことで、生徒理解や各取組の進捗状況などを共有した。
		各取組に危機管理意識・将来の展望が含まれている。 学校の魅力及び生徒の姿の情報発信。 各案件への適切な対応。	各取組に、危機管理意識が盛り込まれている。 また、生徒の将来を見据えた要素が含まれている。 生徒の活動状況等、校外への情報発信を行う。 生徒の事故等、危機管理マニュアルに沿って適切に対応する。	各取組の実施要項等に、危機管理の要素が含まれている。また、生徒に求められる生きる力に通じる要素が含まれている。(副校長・各分掌) 行事毎に、ホームページへの記事の掲載、玉高附中通信の発行を行う。(情報管理・副校長) 常に最悪の状態を想定しながら、先を見通した取組を行う。(生徒指導部)	A	体育祭や若駒祭(文化祭)では、災害時の対応など適切にアナウンスを行った。 行事、生徒の活動については適宜ホームページへ掲載し、玉高附中通信を積極的に発行した。今後、持続的な取組としたい。 危機管理マニュアルに沿い、各分掌で連携し、危機管理に取り組んだ。生徒の大きな事故等はなかった。
	学校改革	働き方改革に沿った改善を進める。 生徒と向き合う時間の確保。	各分掌・係で働き方改革に沿った改善を複数の事項で行う。 校務の精選等により、職員の時間外勤務時間を昨年度より縮減	各分掌・係で、複数の時間外勤務縮減のための改善を行う。(各分掌) 衛生委員会を原則として月１回開催し、時間外勤務の状況等の情報共有	A	取組毎に、実施後に反省点等の集約を行った。また、ＩＣＴの活用による校務の負担軽減を進めた。 衛生委員会は月に１回開催し、情報の

			する。	を行い、校務改善等を検討する。月に１回の定時退庁日を設定する。(副校長・保健主事) 衛生委員会で検討し、「働き方改革宣言」を策定する。（衛生委員会）		共有を図った。定時退勤日についてはほぼ実施できた。 「働き方改革宣言」を策定し、周知することができた。 今後も、さらなる業務の軽減・削減、部活動のあり方などについて検討する必要がある。
学力向上	授業力の向上	年間指導計画や生徒の実態に応じた適切な教育課程の実施	年間指導計画を精査しながら生徒の実態に応じて適切に教育課程を編成する。	年間指導計画や生徒の実態に応じて、教育課程を円滑に実施する。高校教師による特別講義等を実施し、学問の面白さを知る機会の充実を図る。（教務部）	A	年間計画に沿い、また生徒の実態に応じた授業の展開及び個別指導等を行った。高校教師による特別講義や中３が高１の講座に飛び級で参加するなど充実したものとなった。
		積極的な授業公開や授業研究による授業力向上のための対策	授業評価において、生徒の授業満足度が昨年を上回る。	校内外への授業公開、校内外において授業研究を行う。（校内研究部）	B	中高で、相互に授業を参観した。また、他校の授業研究会に参加した。各教科で、授業研究の深まりが求められる。
		学力向上施策の実施	学力の実態を分析精査し、学力向上対策を行う。	各テストの分析を行い、具体的な対策案を提示し、学力向上対策を講じていく。(進路指導部・各教科)	B	各テスト分析を各教科で行い、共通理解を深めた。具体的な対策については、各教科で取り組んだ。各種検定も活用し、生徒の学習意欲の向上に努めた。 今後、学力向上の基礎としての学習習慣を含む基本的な生活習慣の確立に、学年としての取組を、さらに充実させたい。
		中高教科会での研鑽による教科指導力の向上	中高教科会における研究協力を通して授業力を向上させる。	中高合同の教科会を実施し、生徒理解を深め、教科指導における研鑽を深める。（各教科）	B	国語・数学・英語では、中高相互に乗り入れて授業を展開しており、高校で必要な力を見据えた授業展開に助言等をもらっている。理科では、中高で研修

						を行った。 授業内容や教科指導については、工夫改善する余地があり、今後も教科会の充実を図ることが課題である。
	個に応じた学習指導の工夫改善	宅習時間等の課題把握及び対策による家庭学習の充実	週１６時間以上の家庭学習が確保できるように意識を高揚させる。	各学年団と連携し、生徒個々の宅習時間の分析を行い、家庭学習の充実を図る。（教務部）	B	宅習時間調査を学習・文化委員会が実施し、家庭学習の充実を図った。 今後、詳細な分析を行い、適切な課題の量など教科を超えて連携・調整を行いたい。
		少人数指導や習熟度別指導等の効果的な指導方法の工夫改善	英数等における少人数指導や総合的な学習の時間等におけるＴＴ指導を充実させる。	学力に応じて少人数指導や習熟度別指導を有効に活用し、学力向上につないでいく。（教務部）	A	英語、数学において習熟度別授業・少人数の授業を実施し、学力の向上に繋げた。社会科では、高１の探究に繋げるため調べ学習・ポスターセッションに取り組んだ。 学校評価アンケートでは、生徒の肯定感も高く、成果が挙がっている。
中高一貫教育の推進	６年間を意識した中高一貫教育指導の充実	中高一貫教育のシステムの充実	６年間の中高一貫教育を意識した教育システムを、各教科や総合的な学習の時間、学校行事等で、充実させる。	各教科で、高校教師による授業など、中高一貫教育校としての特色ある取組を行う。（各教科） 総合的な学習の時間では、中学校独自の本物に触れる講演等に取り組む。（教務部・副校長） 体育祭･若駒祭（文化祭）で、中高それぞれの取組を充実させる。（生徒指導部） 中高６年間の各取組の位置づけを見える化する。（進路指導部・教務部）	B	５教科（国、社、数、理、英）にわたって、高校教師による授業を実施した。国語･英語･数学では先取り学習を行った。 総合的な学習では、高校のキャリア講演会に参加したり、１年生は囲碁教室（石倉昇九段）、３年生は演劇ワークショップなどの体験活動を実施した。 体育祭・若駒祭（文化祭）では、中学生も生徒会や３年生を中心に、中高で連携し積極的に取り組むことができた。 中高６年間の各取

						組の見える化については、現中３の生徒の高校でのクラス編成等を組み込み、Ｑ＆Ａや学校案内パンフレットの作成が急務である。
		生徒・保護者へ中高一貫教育の趣旨の周知徹底	生徒・保護者へ６年間の教育内容に対する意識啓発を図り、３年生全員が玉名高校へ進学する。	保護者会や各種通信等を活用しながら、６年間のスパンで教育指導を行うことへの理解を進める。（進路指導部・３年学年部）	A	添削指導の充実を図ったり、進路学習を通して職業や学部学科を考えさせたりすることで、高校での学習について中学生のうちに具体的に考えさせることができた。特に高２からのクラス編成等については、学年懇談会で周知した。
キャリア教育（進路指導）	６年間を見通した指導	中高一貫教育校の特色を生かした教育	知的好奇心を掻き立てる教育活動を展開する。	１年生では、最先端の技術や研究機関をもつ九州大学を訪問し、研究内容を実際に体感する。 ２年生では、熊本大学にて本物の講義を受講する。 ３年生では、長崎国際大学・ハウステンボス、異文化理解、語学力、コミュニケーション力向上を目指して、英語合宿を行う。（学年部）	A	１年生の九大訪問では、井嶋博之先生（玉高ＯＢ）の講義や卒業生との交流ができ、大変充実したものとなった。 ２年生は、熊大に加えて、熊本保健科学大、崇城大でも講義を聞くことができ、内容が充実した。 ３年生は、英語合宿で長崎国際大学の留学生と交流ができた。 いずれも大変好評であった。 中高合同の海外研修には中３生の積極的な参加があった。
			望ましい職業観の基礎を養うとともに、「生きる力」を育成する。	地元の事業所（施設）の協力を得て、２年生では職場体験、３年生では福祉体験をそれぞれ２日間行う。（学年部）	A	事前学習を行い体験学習に取り組み、目的を達成することができた。事業所や施設からの評価もとても高かった。
			進路意識の高揚を図る取組を充実させる。	外部講師等を招聘し、全校生徒を対象に進路講演会やキャリア教育講演会を実施する。（進路指導部）	A	中高でのキャリア教育講演会、若駒キャリア塾に中学生も意欲的に参加することができた。

	進路意識の高揚	学活や総学、集会等による進路意識の高揚	高校卒業後を見据えた生徒の進路意識の高揚のための啓発を図る。	学活や総学、集会等の指導を通して、日常の学習と進路との関係性を伝え、生徒の進路意識の高揚を図る。（進路指導部・学年部）	A	学年集会や生徒朝会で、模試分析等や勉強の仕方、将来の進路について話をする機会を持った。特に中３では、進路選択等の実際について高３生による講話や交流を行った。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	様々な教育活動を通した健康的な生活リズムの確立	日常、教科、保健指導等を通して健康的な日常生活リズムを確立させる。	学活や集会、通信等を通して、健康の大切さを理解させ、健康的な生活リズムを確立させる。（生徒指導部・環境保健部・学年部）	A	学年集会を適宜、開催した。毎日の健康観察を通して、健康状態の把握を行った。 月１回保健だより発行し健康管理の啓発を行った。 生活のリズムとスマホの関係性等について、親子でのワークショップを行い、理解を深めた。
		挨拶指導及び整容指導の実施	服装・頭髪等の整容面における生活習慣を確立させる。	日常指導や定期的な整容検査、校門一礼の徹底等を通じて、生活習慣を確立させ、発達段階に応じた自立の育成を図る。（生徒指導部・学年部）	B	生徒全体での整容検査によく取り組めた。校門一礼の意識はやや低くなっている。生活のリズムが崩れがちな生徒には個別面談を行うなど、個々に対応した。
		交通安全意識の高揚及びマナー指導	登下校における自転車の安全な乗り方や公共交通機関でのマナー等を確立させる。	登校指導は生徒指導部で立案し、全職員で実施する。また、全校集会や日常指導、学級通信等を通じて交通マナーについて啓発する。（生徒指導部・学年部）	B	中高合同での登校指導は例年どおり行った。電車通学生のマナー等に課題はあるが、概ね高い意識を持たせることができた。引き続き交通マナーの向上に努めたい。
	生徒会・部活動等の活性化	生徒会や委員会活動等を通した自治能力の育成	主体的に取り組む生徒会活動を確立させる。（月１回以上実施）	生徒会や委員会活動を通じて、主体的な自治活動を経験させ、自治意識を育成する。（生徒指導部）	A	計画に沿い、生徒の意見を尊重した活動ができた。各委員会の取組を自分たちだけで実践するなど自治能力が高い。活動内容の精選が課題である。
		文武両道に則った効率のよ	文武両道に則った効率のよい、	活動場所や時間等の制限がある中で		各部活動ともに計画的に活動した。

		い部活動の推進	密度の濃い部活動を行う。	、年間計画、月毎の計画を作成し、効率よく充実した部活動を進めていく。（生徒指導部・保健環境部）	A	休養日を適切に設け、成長期に合った配慮のある活動に心がけた。 学習面での指導もあり、時間の使い方には、生徒主体の工夫が必要である。
人権教育の推進	職員研修の充実による人権意識の高揚	人権感覚を磨く質の高い職員研修の実施	教職員の人権感覚を磨くための職員研修を充実させる。（中高合同及び独自実施）	職員研修等を通じて、職員同士で振り返りを行いながら、人権感覚を高め、磨いていく。また、年に２回以上、校外研修会に参加する（人権教育部）	B	中高合同の校内研修に加えて、全職員が校外の研修に参加し研鑽に努めた。 中学校独自の研修は、実施できなかった。研修の実施の時期、時間の確保等が課題である。
	指導内容や方法の工夫改善	年間指導計画の精査及び子どもたちの実態に応じた人権学習の実施	年間指導計画を精査し、それに基づいた人権学習の質的に充実させる。	年間指導計画を精査しながら、実態に即した指導内容を考え、人権教育学活を実施し、人権学習の充実を図る。（人権教育部）	A	各学年で学期毎に人権学習を計画し、実施することができた。土曜授業日に人権学習日という位置づけで、学活及び講演会を実施し充実した取組となった。
	「命を大切にする心」を育む指導の充実	自他の命を大切にしようとする姿勢の育成	関連するテーマの授業を設定し、「命を大切にする」という視点をもって日常的な指導を行う。	道徳の授業や人権教育を計画的に進めるとともに、人権･ボランティア委員会が企画する活動に全生徒が参加することにより、自他の命を大切にする心を育む。（人権教育部）	B	年２回の校内人権集会や県人権子ども集会への参加を通して、いのちの大切さを意識する姿勢を学んだ。 １年生では、いのちの大切さに関する講話を実施した。 各取組の位置づけ、系統性が課題である。
いじめの防止等	いじめ根絶と不登校ゼロの取組	日常指導等を通した、いじめ根絶のための意識高揚と不登校生徒や別室登校生徒への支援	全校生徒が安心して生活できる学校をつくる。 いじめや不登校生徒を出さないための体制作りや日常的な指導の在り方の工夫を行い、いじめゼロを達成する。	心のアンケート、教育相談（面談）、日ごろの観察を通し、わずかな変化も捉え、事実の確認及び早急な対応に努め、人間関係のもつれや問題行動等を未然に防いでいく。 「心のきずなを深める月間」の取組で生徒が書いた人権作文や人権標語	B	年度初めに、いじめ防止等基本方針について共通理解を図った。校内心のアンケートを活用し、生徒の思いを汲み取りながら、生徒の人間関係の改善等に対処した。 人権作文の取組や全校生徒での「いじめ０宣言文」の唱和などに取り組んでいるが、その内容を

				の紹介を行う。「いじめゼロ」宣言文の確認をし、全校生徒で読み上げる。（生徒指導部・人権教育部・生徒会）		身近なこととして捉えることができるよう、生徒が主体的に考える機会を設けるなど取組の深化に工夫が必要である。
特別支援教育の推進	一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育体制の確立	様々な情報をもとにした特別な支援を要する生徒の把握及び適切な支援	特別な支援を要する生徒の把握と個別の支援計画等を策定する。	小学校や各種検査等の情報をはじめ校内での連絡を密にし、特別な支援を要する生徒を把握、支援計画等を策定するとともに、適切な支援を行う。（人権教育部）	A	個別の支援計画、指導計画とその評価について共有することで支援を行うができた。 個々の生徒への支援が充実してきた。
		職員研修をもとにした特別支援教育の在り方についての研鑽	教職員の特別支援教育に関する研修を充実させる。（年１回以上）	中高合同の研修や校外研修を通して、個に応じた特別支援教育の在り方の研鑽を深める。（人権教育部）	A	中高合同での校内研修を行った。また、特別支援教育指導力向上研修を受講した。
環境教育の推進	学校版環境ＩＳＯの視点にたった環境教育の充実	研修を通した教職員の環境保全意識の高揚	生徒の環境保全意識を高めるための指導方法の工夫改善を行う。	中高合同でＩＳＯに取り組むことで、教職員の環境保全意識を醸成する。（保健環境部）	A	エコチェック等を通して環境保全意識の醸成に取り組んだ。裏紙の利用やゴミの分別など、適切に取り組んだ。
		生徒会による環境ＩＳＯ実践の充実	中高連携による学校版環境ＩＳＯの取組を推進する。	中高の生徒会活動等を通して、生徒の意識を高め、学校版環境ＩＳＯの取組を推進する。（保健環境部）	A	美化委員会で美化チェックを行った。コンタクトレンズのケースを集めるなど生徒の発案による取組も充実した。
安全管理	健康で安全な学校生活のための意識高揚と校内体制の確立	日常指導や学活等を通した生徒の健康・安全意識の高揚	食育や性教育の充実をはじめ健康診断等の活用による生徒の健康増進のための取組を充実させる。	日常指導及び学活、保健委員会の活動等を通して健康で安全な生活を意識した生徒の育成を図る。（保健環境部）	A	保健委員会で学期に１回、生活習慣チェックを行い、生活リズムを整える働きかけを行った。学校保健委員会では、睡眠をテーマに協議を行い、学校医からの助言をいただいた。
情報教育の充実	情報の正しい活用と意識の高揚	生徒の情報管理や情報モラルに関する意識の高揚	情報の正しい利活用のためのノウハウの習得及び情報モラル意識を育成する。	各種の研修を踏まえ、生徒の実態に応じて情報管理や情報モラルに関する意識を高める。 また、保護者会等	A	各学年の授業で、情報モラルに関する内容を取り扱い、生徒の意識の向上を図った。 育友会親子行事で

				で保護者向けの講演会を実施し、情報の提供と意識の高揚を図る。(教務部情報管理係)		はスマホの使い方等に関する親子ワークショップを行い、意識の高揚を図った。
読書指導の充実	読書による学力と豊かな心の育成	よりよい読書活動を通した学力と豊かな心の育成	学校図書館や良書推薦を通して読書を推進していく。学校図書館利用に関しては年間一人当たり４０冊以上とする。	図書委員会を中心に「読書祭り」と称し、「帯コンテスト」などの様々な企画を実施することで、読書に親しむことを意識させながら、学力と豊かな心の育成につなげる。（図書部）	B	具体的な取組は、例年どおり実施した。一人当たり３０冊以上の貸出数を目標としたが、達成できていない。図書館終礼以外にも、何らかの工夫、環境づくりを行いたい。 スマホの弊害を伝えると同時に、読書の有用性を伝えるなど、連動した取組としていきたい。
保護者･地域との連携	保護者や育友会組織との連携	各種便りや授業参観等を通した保護者との連携と協力体制の充実	学級便り（週１回程度）や授業参観（年３回）等の情報提供による保護者との連携協力を充実させる。	各種便りや授業参観等を通して、確実に保護者等への情報を提供していくことで、連携協力体制を固めていく。(副校長・学年部)	A	各学期に行っている授業参観・学年懇談会や毎週発行している学級通信を通して、情報の提供を行った。また、玉高附中通信を作成し、行事等の生徒の感想等を提供した。
		中高の職員と育友会役員とが連携し合う円滑な育友会組織の運営	中高連携による育友会組織の確立と取組を充実させる。	中高連携の育友会活動を職員と育友会役員との連携のもとで充実させる。(副校長・総務部)	A	育友会の活動を軸に、会長・役員の方々のリーダーシップの元、職員も連携し活動が充実した。
	地域への貢献を意識した取組の確立	様々な教育活動の中で、地域社会に役立つような奉仕活動等の検討と実施	生徒の学習活動における地域への奉仕活動等の取組を充実させる。（年１回以上）	総合的な学習の時間や学活、学校行事等に、地域社会に貢献する活動を取り込んでいく。（学年部）	A	中３では福祉体験を通して交流を行い、地域に貢献した。生徒の発案により生徒会主催で公園の美化活動に取り組んだ。
		故郷について知り、故郷について考え、故郷を愛することに繋がる取組を増す。	生徒の学習活動における故郷をテーマとした活動を取り入れる。	総合的な学習の時間や学活、学校行事（文化祭）等に、故郷に関する活動を取り込んでいく。（学年部）	A	中１では、地域理解をテーマに調べ学習を行い、授業参観の際に発表し、好評を得た。玉名歴史博物館及びいだてん大河ドラマ館訪問を行い、地域理解を深めた。
地域連	安全な学校	緊急事態対応	防災型コミュニ	学校運営協議会で		防災主任を中心に、

携（ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｽｸｰﾙなど）	づくりの推進	の徹底	ティ・スクールとして、活動内容の検討を行う。	検討し、防災主任（高校）を中心に総務部で災害時の連携･対応マニュアルを作成する。（総務部）	A	災害時の連携・対応マニュアルの作成を進め、運用した。今後、災害時に中学生が置かれる状況を想定した備蓄等の準備を進めたい。
			避難経路の確認と避難訓練を実施する（年２回）。	総務部が立案し、学校全体で取り組む。（総務部）	A	４月に避難経路を確認し、常時教室掲示を行っている。避難訓練の際には、適切に避難できた。 防災リーダー育成研修（福島）に参加し、成果発表を行った。

４　学校関係者評価

学校評価に関するアンケート（職員、生徒、保護者）を実施し、分析等を行い、令和２年（２０２０年）２月１２日の学校評議員会及び学校関係者評価委員会において、意見や助言をいただいた。全体として、本校への期待が大きく、高い評価を得た。アンケートの分析結果や日ごろの教育活動に関する意見・感想等については次のとおりである。

◇意見・感想等
・アカデミック・リポートを参観して大変感激した。学校の取り組みを、もっと大きく紹介をしていってほしい。
・学校評価委員としては、学力向上の取組やその他、生徒が魅力を感じていることを知ることができる。玉高の頑張りをアピールし、一般に広く伝えていくとよい。
・生徒の好奇心のリミッターを外すことの大切さ、色々なことを知ることのできる自由さ、その良さを再確認して、子どもたちにも玉高を選んでほしい。
・資料が素晴らしくて見やすい。時間がかかっているのではないか。文武両道、色々な活動があって、色々なことが好きな生徒に対応できる取り組みがある。
・スマホ等のゲーム依存にならないようにという指導と、図書館を活用し読書を勧めるという姿勢については、そのための環境をつくり生徒の興味関心を引き出していくことで、可能性を広げることにつながると思う。将来役立つことを実践されていると感じた。
・育友会としても情報の発信に努めたい。親の口コミも活用したい。伝えることの大切を感じている。
・アンケートの項目によっては、生徒の評価が職員や保護者の評価より高い項目もあって素晴らしさを感じている。
・玉名高校附属中の保護者としては、高校と一緒の部分と、玉名高校附属中は附属中としての活動もあってよいと考えている。
・保護者、職員、生徒で、玉名高校のファンを多くつくっていくことを大切にしたい。育友会や地域の活動でも、学校外へ向けて関わり発信し、ファンを多くつくる活動としたい。

５　総合評価

現在、３期生が玉名高校を経て大学進学等を果たし、玉名高校附属中学校へは９期生が入学している。今年度は、一つ一つの取組の中で、中学校の３年間及び高校の６年間での位置づけについて考えながら、各取組の改善等に努めてきた。また、生徒の持つ可能性を広げるために、知的好奇心の涵養と表現力・発信力の醸成を求めてきた。

質の高い授業や個に応じた学習指導等の学習面では、高い評価を得ることができた。中高合同の行事等でも、中学生の果たす役割を十分に果たし、中学校独自の生徒会活動や委員会活動にも高い

評価を得ることができた。
　１期生以来、実施してきた様々な取組を精選し整えていきながら、さらに中学校独自の取組をうまく組み込んでいくことで、特色ある教育活動の充実を図っており、地域及び保護者の方々にも、その方向性に理解を得ることができた。
　学校生活における生徒の不安感等の把握・理解やいじめの未然防止等の対策、職員の負担感の軽減、業務の精選・削減等については、課題が多いが前向きに取り組んでいることに評価いただいた。

６　次年度への課題・改善方策

　生徒一人一人の夢実現のために、中学生の持つ知的好奇心を広く・深く喚起させ、将来のキャリア構築の一助となるよう、種まきとなる授業や探究、行事等の充実をさらに図りたい。
（１）今までの取組を整えることで、学校評価アンケートにおける①質の高い授業（肯定感、生徒91.8%）、②一人一人に応じた教育指導の工夫（肯定感、生徒72.0%）について、高い肯定感を維持する。多様な取組を通して、生徒の興味関心の幅を広げ、主体的な学びの種まきを図る。ストレスマネジメント等の心の健康に取り組み、自律できる生徒を育成する。
（２）学校改革委員会を継続して行い、さらなる中高６年間の取組の魅力化・見える化を図り、生徒の活躍を情報発信し、生徒募集等に取り組む。
（３）次年度のおもな改善案、取組等
　ア　生徒に関する取組
　　・中学校版本物に触れる講座
　　・心の健康（ストレスマネジメント、ソーシャルスキルトレーニングなど）の充実
　　・防災教育（防災グッズ・食料等の備蓄を含む）
　　・表現力・発信力向上のためのワークショップ等
　イ　職員に関する取組　　・業務の精選　　・定時退庁日の設定と徹底
　ウ　情報の発信　　・ＨＰの充実　　・学校通信の継続した発行　　・学校説明会の改善